

《薬局サーベイランスコメント》

『第4週のインフルエンザの推定患者数は約228万人と前週に続いて2009年に薬局サーベイランスが始まって以来の最多数を更新。一方で今週（第5週）は減少に転じると予想される』

2019年1月29日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第4週（1月21～1月27日）のインフルエンザの推定患者数は、2009年に薬局サーベイランスが開始されて以来最多であった前週の値（2,073,32）を更に上回って2,228,130となりました（図1）。一方、週明けの第5週の月曜日（2019年1月28日）の推定患者数は435,950と前週の月曜日の値（523,906）を下回っていて、第5週（1月28日～2月3日）の患者数は前週よりも減少すると予想されます。

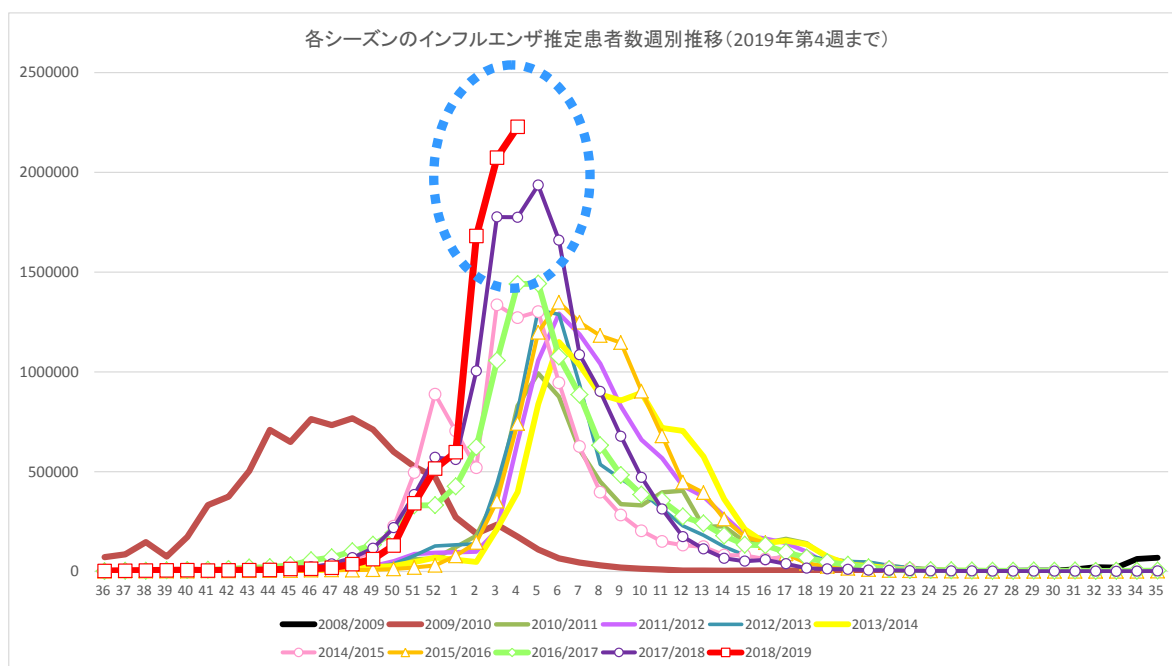


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第4週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第4週の推定患者数：2,228,130）

各都道府県別の第4週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、三重県、栃木県、秋田県、北海道、奈良県、新潟県、茨城県、滋賀県、大分県の順となっており、31都道府県では前週よりも増加が見られています。

2018年第36週から2019年第3週までの累積の推定患者数は7,754,633であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は6.12%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(19.95%)、10～14歳(14.79%)、0～4歳(13.76%)、15～19歳(8.28%)、30～39歳(6.48%)、20～29歳(6.43%)、40～49歳(5.83%)、50～59歳(4.73%)の順となっていて、例年に比べると成人層の罹患率が高くなっています(図2)。

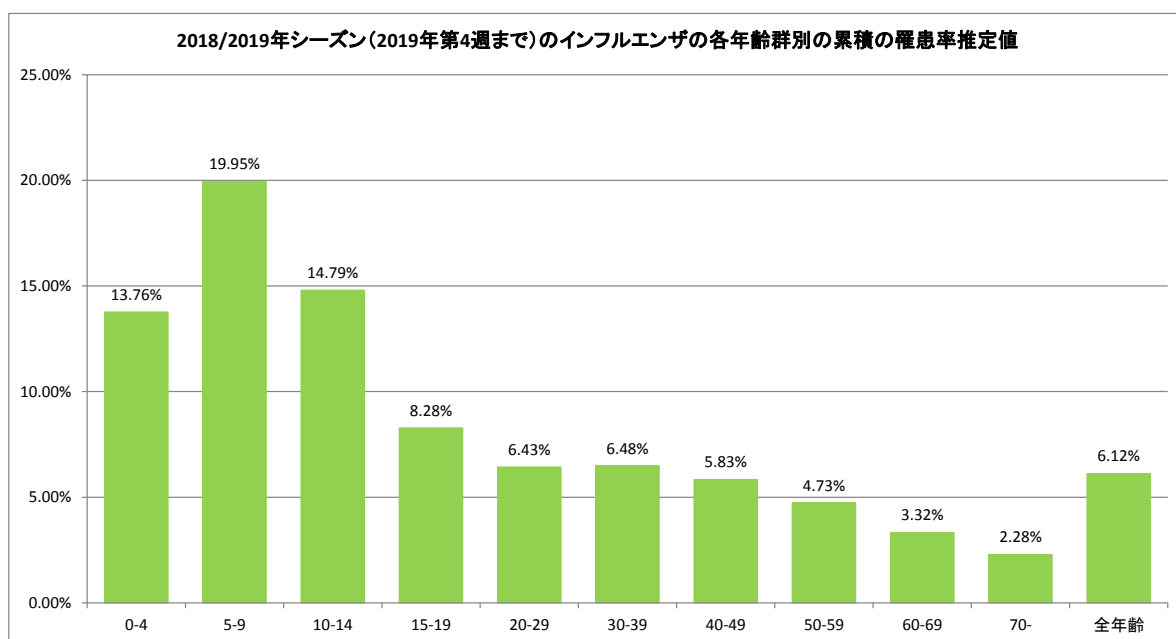


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2019年第4週、累積推定患者数=7,754,633)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,104検体解析)は、A/H1pdmが64.6%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型33.9%、B型1.5%の順となっている一方、1月に入ってからではA/H3(A香港)亜型の検出数が半数近くを占めています。

2019年第4週の推定患者数は約228万人と、前週に続いて2009年に薬局サーベイランスが始まって以来の最多数を更新しましたが、今週(第5週)は減少に転じると予想されます。しかしまだ大きな流行状態であることには変わりはなく、今しばらくはインフルエンザの流行には警戒が必要です。